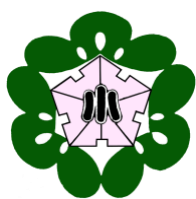


教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和6年6月3日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目1番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>

今、あらためて「SDGs」と「ESD」 ～新しい教科書より～

校長 関口 保司

5月11日に実施した学校公開には、たくさんの保護者・地域の皆様にご来校いただき、子どもたちの授業の様子を参観していただくとともに、立川市吹奏楽団の演奏を子どもたちと一緒にご鑑賞いただきました。ありがとうございました。

さて、今年度子どもたちが使用している教科書は、昨年度採択された新しい内容の教科書です。同じ教科書会社であっても、昨年度とは内容が一新されています。特に理科や社会科の教科書には、SDGs（持続可能な開発目標）の内容が大きく取り上げられています。理科の教科書では、まず見開きのページにSDGsの目標とともに各学年で学ぶ力（例3年「なぜ？」を探しに行こう）等が示され、学習のなかでもSDGsとの関わりのページがあります。また6年の社会科の教科書の表紙には、アルゼンチンの子どもたちがSDGsの目標を掲げた写真が載っています。そして各学年の社会科の教科書には数ページにわたってSDGsとの関連のページがあったり、コラムがあったりします。

今、地球上では、平和や気候変動、災害や貧困等、数多くの課題があります。今後は、さらに多くの課題が、互いに連動し、より複雑な社会になっていくでしょう。そのような時代に生きる子どもたちには、学びの形も変化していかなくてはなりません。以前は、教師が中心で知識を伝えていく教育でした。これからは、子どもが中心で、主体的に、そして友達と協働しながら学びを進めていく教育に変化していかねばなりません。そして学びを進めていくなかで、子ども自身の考えや行動が変わっていく教育が必要です。それが「深い学び」につながっていくと思います。そのためには、まず教科書等の問題を自分自身の出来事と関連して捉える必要があります。理科の植物の学習や社会科の工業の学習も、自身の生活との関連のなかで考えていくことが重要です。さらに自分自身の問題から、地域や日本そして世界へと視野を広げて思考してほしいと考えています。それがESD（持続可能な開発のための教育）だと私は考えています。立川市民科の教科化を議論した際も（立川市民科に教科書はありませんが）単に地域のことを学ぶのではなく、その学びから多様性や世界にも目を向けさせ、新しい資質・能力を身に付けさせたいと話したことを覚えています。

ご家庭でも、子どもたちと一緒に教科書を読み、実生活との結び付き等を話題にしていたいただければと思います。これからも様々な工夫を重ねながら、子どもたちの教育に取り組んでまいります。本校の教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。